

# 栄光

説教

## 『キリストのもの』

コリントの信徒への手紙二 10章7節～11節  
エレミヤ章1章4節～10節

岸 俊彦

説教……………1
特集・「イースター」私の信仰を見直す……………2
ありがとう 経堂北教会……………5
長老辞任のご報告……………6
日本基督教団宣教 方策会議報告……………6
伝道師の書き込み……………7
牧師の書齋から……………7
長老のファイル……………8

「手紙は重々しく力強いが、実際に会ってみると弱々しい人で、話

もつまらない」(Ⅱコリント10・10)。パウロに実際に会ったコリント教会の反対者たちのパウロ口評です。彼らにとってパウロは使徒としてふさわしくは見えませんでした。

「あなたがたは、うわべのことだけ見えています」(10・7)とパウロは答えました。「正面からも見るがよい」と命令形に訳すこともできます。見るべきものを見なければなりません。

それは、パウロの肉体的弱さ(12・7)でしょうか。話のつまらなさ(言葉の軽さ)でしょうか。手紙では偉そうだという皮肉でしょうか。見えるのではなく、見えないものに目を注ぐのです。信

仰の目を開くのです。

「神の御心によつてキリスト・イエスの使徒とされたパウロ(Ⅰ・1)」と、主の召命に基づく確信と誇りをもって、パウロはコリント教会に語りました。使徒パウロを背後から支えているのは主の權威です。反対者がキリストのものなら、パウロもそうです。全てを献げ、苦難に耐え、全力でキリストの福音をギリシヤ世界に伝道してきました。

私たちにとって大切なことは、自分自身が本当にキリストのものとなつていくかどうかです。自分の思いや願い、自分の夢を第一に生きるのではありません。御心に生きるのです。御心のままに生きるのです。御心のままに生きてこそ、実は自分の本当の思いや願

い、自分でも気づかなかつた自分自身の夢や希望に気づかされるのです。

この世に生きる私たちは、何かに属していることで安心感を持つことができます。会社のもの、学校のもの、家族のもの、さまざまなグループのもの。コリント教会の人たちは、パウロのもの、アポロのもの、ケファのもの、キリストのものと言いました。しかし、私たちはそうではありません。口ばかりのキリストのものでもありません。自分自身のものでもありません。心から信じ委ねたキリストのものです。共にキリストを土台とする真の教会を建て、それに連なる肢として、キリストのものとしてふさわしい生活を私たち一人ひとりが造り上げるのです。そう心から願うものです。

「キリストは、弱さのゆえに十字架につけられました。神の力によつて生きておられるのです。わたしたちもキリストに結ばれた者として弱い者ですが、しかし、あなたがたに対しては、神の力によつてキリストと共に生きています」(13・4)。

反対者から使徒にふさわしくないと見えるパウロの弱さは、かえって十字架のキリストの弱さを証します。私たちは弱いものです。人間的に見てキリストのものとしてふさわしくありません。人間的に誇るものではありません。しかし、神の力によつてキリストのものとしていたでいます。神の力によつてキリストと共に生きています。つくづく情けないと思う自分を主を選んでくださいました。自分自身の情けないほどの弱さゆえに、十字架につけられたキリストを指し示すのにふさわしい器と、主がしてくださいました。私たちの弱さにおいて力を発揮される、十字架と復活のキリストこそ私たちの誇りです。ただ主の恵みによつて、キリストのものとしていたでいることこそ、私たちの喜びです。

それでもクリスチャンか、と言われることがあるでしょう。そうです。だからこそキリスト者です。弱さのゆえに十字架につけられたキリストを神が復活させてくださいました。パウロのように、私もこのキリストを伝えたいのです。

# 「イースター」

## 私の信仰を見直す



復活の喜びに包まれる時  
 私たちの信仰も見直してみませんか。  
 どんなきっかけや出会いがあつて  
 今の信仰が与えられたのでしょうか。  
 いつも「喜び、祈り、感謝」する日々は  
 難しいでしょうか…。

### 復活の春

岡田みな子

子供の頃からクリスマスは聖誕劇と賛美歌、イースターは可愛い卵を頂くのが日曜学校の二大イベントでした。年が上がるにつれて復活ってどういうこと？と考えるようになりました。聖書の中で気になることはたくさんありますが、特に「パウロの回心」の箇所です。キリスト教徒を迫害し続けていたパウロが、天からの呼びかけに「主よ、あなたはどなたですか」と応えたことは衝撃でした。未熟な時代でしたが私にもいつも上から呼びかけがあるのだと思いました。

昨秋国立西洋美術館に「ハプスブルク展」を観に行きました。その繁栄を彩った美しい肖像画、宝飾品などきらびやかな展示の中に、ひととき沈んだ色合いの「使徒パウロ」(レンブラント画)を見つけ釘づけになりました。手にはペンを持ち、机の上には書きかけの手紙、後方には剣、顔に刻まれた深い皺を覆うような髪と髭、その瞳は一点を見つめて絶望しているかのようです。これは今説教で取り上げられている「涙の書簡」を書いている所にちがいないと絵葉書を求め岸先生にも見て頂くと、翌週の説教で取り上げておられました。会ったこともないキリストの復活を信じ、生涯をその伝道にささげたパウロの働き。以前アテネのパルテノン神殿に登る途中、ガイドが「パウロがこの上に立ち伝道した」と畳一枚ほどの岩を示した時は身震いしました。

今年になって少し体調を崩しましたが、家族や周りの方々に励まされ、元気にイースターを迎えられることは感謝でしかありません。我が家のダイニングから見える南京ハゼが小さな芽を出し、ヒヨドリ、メジロなどが来てくれます。巣箱を付けたら昨春はシジュウカラのカップルが、せっせと枯れ枝などで巣作りを始め、楽しみにしていました。間取りが気に入らなかつたのか、写真を撮つたのがいけなかつたのか、途中でやめてしまいました。今年も来てくれたら静かに見守りたいと思います。

## いつのまにか与えられた信仰

綱川めぐみ

牧師の家庭に生まれて、私にとって神様の存在は最初から当たり前のことでした。赤ちゃんの時に兄と一緒に幼児洗礼を受けました。兄は「アーメン」と言ったそうですが、私はまだ言葉が出る前でした。物心ついた頃から食事の前と就寝前にイエス様の御名を通して神様に祈るのが日課でした。そういった意味では最初から神様を信じて生きてきました。それを信仰というのかはわかりませんが、

ただ、人目を気にするというか、小学生の頃は友だちからの「神様を信じているの?」とか「献金でくらししているの?」などの悪気のない言葉に傷ついたりしました。日曜日は教会優先という不自由さへの不満も感じていました。それなのに私の信仰はなくなることはありませんでした。

私が中学1年生のクリスマスの時、高校1年の兄が「そろそろ信

仰告白をする」と言いました。幼児洗礼を受けている人は信仰告白をしてクリスチャンになるんだと知りました。洗礼式ができないということを残念に感じました。兄をまねして高校1年の時に信仰告白をしました。深い決心とかはなかったように思います。

その後18歳で親元を離れ、経堂北教会に来ました。いつのまにか与えられた信仰は、不思議なことに消えることなく今日に至ります。自分の人生を振り返れば、多量なりとも山あり谷ありでした。谷の時ばかり神を求める弱いものですが、それを機に少しずつ信仰も成長しています。

3年前に亡くなった父の遺品の手書きノートを最近整理しました。懐かしい父の字で書いてある説教はなぜか父の声が聞こえてきます。全部は読んでいませんが、ところどころ読んで、私が小さかった頃も私が大人になってからも、聖書の御言は不変の福音であると感じています。まだまだ知らないことばかり、恵みに感謝してこれからも少しずつ成長したいものです。

## 共に祈る喜び

松浦愛美

昨日、引越しのため段ボール12箱を高知県に送りました。ひとまず「第1弾」の荷物です。残りの荷物はアパートの退去日に送ります。荷造りをしながら、この1年を振り返っていました。初めて実家を出てアパートに住んだこと、結婚したこと、何より母教会から転入会をして経堂北教会の教会員になったということは大きな変化でした。

今回の信仰を「見直す」というテーマに、昨年9月全体祈禱会で証をしたことを思い出しました。これまで色々なタイミングで「証をしてください」と言われることがあり、いつも内容は同じで「クリスチャンホームで育ち、キリスト教主義の幼稚園から大学に通い、保育関係に進み、今に至ります」と言っています。最近になって「牧師になろうとしている人と結婚しました」という内容が追加

され、ようやく変化が出ました。結婚して、教会のことを最も話す相手が夫になりました。というのも性格(人種?)や趣味など全く異なる私たち夫婦の共通の話題は「教会のこと」ばかりなのです。教会の方々や教会学校の子どもたちの話、その交わりの中で話題になった内容、教会や奉仕のことなど…。会話の中で自身の価値観だけでなく、その時の信仰のあり方が問われることになり、神様との関係が表されることを思いました。どんなことも後ろ向きに考えてしまう時や、自分ばかりが苦労しているように思う時は、自分と神様との関係も不安定になっていくことに気づかされます。以前はとにかく私自身がどのように神様と繋がりが続けられるかということばかりでしたが、今では夫婦がお互いに神様との関係が守られるよう祈る信仰に変わりました。

この春から礼拝を守る高知教会の礼拝の開始時刻は「午前10時15分」です。時を同じくして共に礼拝を守る経堂北教会の皆様のことを覚えて、これからも夫婦で祈りを合わせていきたいと思えます。

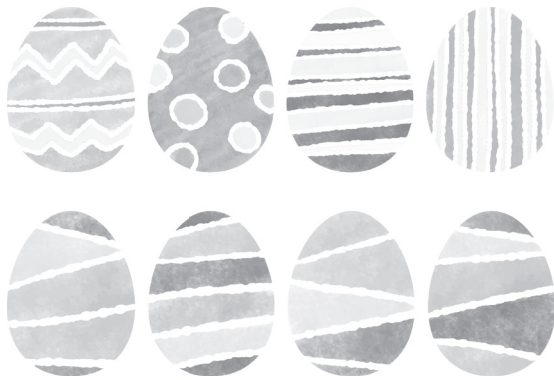
## 母の信仰

村田佳子

イースターを迎え、復活の喜びに包まれる時、私の信仰は、亡き母の信仰生活によって導かれたと改めて思います。

私たち兄妹4人が幼い時、子育てと仕事、家庭との両立は決して簡単に推移しなかったはずですが、しかし、当時から母は活き活きと日々を過ごし、笑い声が絶えませんでした。そして毎週日曜日に教会へ通い礼拝を受け、教会学校の奉仕、聖歌隊の奉仕に勤しむ姿が昨日のこのように思い浮かびます。毎週日曜の夜、家族で食卓を囲み、食前の祈りを捧げる時、「今朝も礼拝で御言葉を受け、力を与えられ、この新しい1週間も歩めることを感謝します」と常に感謝の祈りを捧げていた母。私の信仰は、母の姿無くして成り立ちません。

母の大切にしていた聖書の一句は「常に喜んでいなさい」。



思う通りにならないことの方が多い社会生活の中で、そのような不快な状況を、母は快適に転換できる人でした。強い信仰を持つて、真摯で一途な生き様は、今なお、私たち、家族の心に息づいています。

私も母のように、御言葉によって自分の心のあり方を神に真っ直ぐに向けられる信仰を持ち続けたと思います。

イースター  
「私の信仰とは」

大友太郎

大学生のときにクリスチャンになつてから、30年近くが経つてしまいました。その間、あまり礼拝に出なかつたり、月定献金を献げなかつたりと、しっかりと堅く信仰を持つという生活からは程遠い生活を送っていた時間が長かつたと思います。

そんな自分ですが、子供の時からクラシック音楽が好きだったこと、大学でアンドレイ・タルコフスキーの映画に出会ったことで、バッハの「マタイ受難曲」「ヨハネ受難曲」に触れ、繰り返し何度も聴くようになりました。この受難節にも何度も聞いています。バッハの代表曲でもあるこの曲の中から、自分の作った自主映画の中にも使わせてもらいました。マタイ受難曲のペテロの否認の場面の後のアリア「隣れみたまえ、わが神よ」は自分の信仰のいい加減さを強く思い起こさせます。

自分にとって信仰は、幼少期から教会学校に通っていたことに始まります。生活の中に普通に神様の存在があり、成長したときに神様の存在はある意味で自分にとって自明のものと考えていたように思います。少年から青年の間、自分に依り頼んでいたのが、神様を依り頼んで生きていこうと思つたことが受洗のきっかけでした。

それから30年。あまり深く考えることのできない私は、なんとなく、その思いだけで今まで来てしまったようにも思います。なんの導きか、2年前に教会の長老としての働きに召され、こんな自分が教会組織で長老をやつていつていいのかと思う毎日ですが、それでも聖書を読み、司式での祈りを例文集などを読んで考え向き合う機会を作ってもらつたのだと思ひ、励んでいます。これから人生を歩んでいく中で、少しでも確信と自信をもって、神様の助けで自分の果たすべきことをしていくことができるようにと神様に願っています。



## ありがとう経堂北教会

松浦子基

私は2015年の秋に上野峻一先生の紹介で経堂北教会の群れに加わりました。その頃から教会学校の教師として奉仕をさせていただきました。翌年の2016年度から上野陽子さんと共に、新設の大学生を対象とした「学生科」の分級を担当しました。教会という場所に「大学生のたまり場」として、居場所をつくることができましたらと思つて、礼拝前に30分間集まる時を過ごしました。

私は大学を卒業してすぐ東京神学大学に編入学したので、学生科の生徒と年齢が近く距離感がなく分級を行えました。毎週日曜日の学生科の時間が楽しみでした。そこにまだ大学に入学したばかりの高橋麦君、大学生だった諸橋鷹広君、村枳真友子さん、小田瑤恵さんが参加していました。私は学生科の生徒たちが大学を卒業し、会社や学校に就職していく姿を間近で見ることができ感謝でした。何よりも学生という多忙な時期に、日曜日の礼拝生活を重んじようと

する彼らの信仰に良い刺激を受けました。

私が生まれ育った名古屋の教会では、現在教会学校が行われていません。少子高齢化が進み、教会から若者と呼ばれる世代が減り、教師を担う人材も不足して、教会学校を行いたくても行うことができない状況の教会が数多くあります。そのような中で、経堂北教会のような教会で、教会学校を経験させていただいたことは貴重な経験となりました。実際に子どもたちとかかわる中で子どもたちから学ぶことの大切さを体感しました。

この教会で教会学校の生徒たち子が信仰をもって成長し、今度は教師となつて子どもたちに伝道をしていることは驚くべきことです。子どもたちと共に礼拝を守りながら、いつかこの中から長老が選ばれるかもしれないと思うと経堂北教会の10年後、20年後がとても楽しみです。毎年2月に行つている餅つきは個人的に大好きな行事です。理由はおなか一杯、大好きなお餅を食べることができらからです。それも教会学校の生徒が一生懸命ついたお餅です。教会員

の方々がおいしそうに食べている姿に心も温まります。教会に集う一人ひとりが礼拝の後に餅つきを楽しむ光景に、経堂北教会の雰囲気がよく表れているなと思います。

神学校生活を振り返つてみると、自分の力が足りず挫折の連続でした。ですが学生寮では良い仲間が与えられ、学校では先生方に励ましの声をかけられ、そして教会の方々の交わりと祈りに生かされ、なんとか伝道者としてのスタートラインに立つことができました。時間はかかってしまいましたが、神学校生活の6年間で学んだ経験が、自分には必要だったのかもしれない。妻である愛美さんとも、神学校生活がなければ出会いませんでした。2019年9月に逝去された大住雄一学長に婚約の報告をした時は、とても喜んでくださいました。大住先生はいつも神学生のことを気にかけてくださり、特に私のような落ちこぼれの学生に歩み寄つて声をかけてくださる先生でした。愛美さんと二人で挨拶に行つた後に、大住先生は私に「どうしようもない神学生だと思つていただけ、愛美さん

と出会えてよかったですね」と言つてくださいました。

まさか教会学校の分級を夫婦で行つているなんて、6年前は想像もしていませんでした。「神のなされることは皆その時になつて美しい」(コヘレト3・11口語訳)という聖書の言葉通り、神様はその時になう計画を私に用意してくださつたのだと思います。そしてこれからも神様の導きを信じて、伝道者として歩んでいきたいと思ひます。

本当に4年間お世話になりました。皆様が高知にお越しの際には、カツオを羹であぶつてお出迎えたいと思います。ぜひ遊びに来てください。

これからも経堂北教会のことを祈りに覚えたいと思ひます。

## 長老辞任のご報告

牧内美和

昨年度長老に再選され、任期中であるのにも関わらず、この度、広島に転居することになりました。広島は祖父が牧師として遣わされ家族と過ごした場所です。終戦後まもなく広島西部教会と幼稚園を設立し、祖母と共に働き、5人の子どもを育てました。

私は家族と、夏休みや冬休みに広島へ行くのが楽しみでした。現在は叔母が一人で暮らしています。経堂北教会で受洗した親戚の小田瑶恵さんの家族のフォローもあり、健康も与えられ、日々の暮らしに困っている訳ではありませんが、小さい時から可愛がってもらっていた私の気持ちに変化があり、徐々に暮らし方改革を考えるようになったのです。幸い母は元気で教会にも通い、息子の大学進学も決まり、東京⇄広島間の連携は取れると判断いたしました。

ですが経堂北教会は17歳から通い、人生の大半を占めた大切な場所です。受洗から出産、また子どもを受洗もあり、なんて幸せな場

所でしよう。友人もいて、その交わりは神様からのプレゼントにほかなりません。友人の一人は「美和はあつちでの生活に耐えられずきつとすぐ帰ってくるよ」と温かい言葉をくれました。帰ってきたも良いのだ、と思いました。

あまり先のことを考えず動くことの多い性格です。新しい仕事への不安もあります。まして新たに始まる叔母との生活はどんなでしょう。諸々心配ばかりです。言いは少し乱暴でしたが「いつでも帰っておいで」の一言は嬉しかったです。「人の手で造られたものではない天にある永遠の住みか」(コリントⅡ5:1)に住むことを知っていることは心強く、しかしそれでも弱い私は愛する家族、友人のもとに時には帰ってこようと思えます。そして広島での生活を固め、38年間の教会生活を胸に歩みを進めたいと思います。

長老としての働きを最後まで担うことが出来ず、誠に申し訳ございません。困難な世の中です。皆様の健康と平安を心よりお祈り申し上げます。

日本基督教団  
宣教方策会議報告

2月24、25日富士見町教会で宣教方策会議が行われました。主題は「日本基督教団のこれからを考える」伝道推進と機構改定」でした。教区の代表者や教団関係者など69人が参加しました。

初めてこの会に出席した私は、伝道推進基本方針展開検討小委員会委員長の立場から発題しました。教団は「1 祈祷運動 共に祈ろう」「2 信徒運動 共に伝えよう」「3 献金運動 共に献げよう」の伝道推進基本方針を掲げ、毎月第3主日を「日本伝道の推進を祈る日」とし、「全国伝道推進献金」を募っています。そのため祈りに覚える教会を1教区から2教会挙げ、『信徒の友』に毎号2教区ずつ掲載しています。今秋に行われる教団総会までに16教区5支区を一巡するよう、この運動を「ともかくにも進めている」(教団新報)と報告しました。

教団総会副議長)の発題でした。伝道不振と財政逼迫の教団を立て直すため教団機構改定は喫緊の課題です。この秋の教団総会に教規変更議案を提出するため、改定素案が示され協議されました。

教団総会議員数を400人から200人に、常議員数を30人から15人に半減することによって議事の効率化と経費の削減を目指します。もう一つは、様々な委員会を伝道局と教務局に整理し、教団が人材と財を伝道に集中できるように組織の見直しを進めようとするものです。

何のための伝道推進か、ビジョンを明らかにするようとか、伝道局の中身が見えないなどの意見がありました。いずれも今後の課題です。

そのほかに厳しい現状にある各教区からの発題と、伝道、教育、社会の三つの常設専門委員会からの発題がありました。それらの委員会が機構改定によって、どのように位置づけられるのか、あるいは改廃されるのが問われました。また全国教会婦人会連合からも発題があり、これからも教団と連携する姿勢が示されました。(岸)

## 伝道師の書き込み

教会総会が近づいてきました。

今年は無事開けるのかさへ不安なのですけれども、それでも資料は準備しなければなりません。今年は頂いた原稿を資料にするために整える作業をしています。私の母教会の総会資料はB4ほどの紙つべら1枚でしたから、はじめてこの教会の総会資料を見たときはその分厚さに、ぎょつとしたものです。過去の総会資料もきちんと頂

いているのですが、原稿を直す作業をしていると、教会はこんなこともやっていたのか、と改めて気づかされます。伝道師といっても教会の働きすべてに参与しているわけではありません。こうした資料作成を通して、自分がいつもは見えない教会の体の働きを垣間見ることができるとはありがたいことです。

今年も私も総会資料の厚みを増やす任を与えられています。原稿を作成していると、資料にする類いのものではない色々な思いが浮

かぶものです。祈祷会についての報告作成中にもふと思ったのは、イスラエルの民がいかに預言者の言葉に生かされていたかということ。私の担当している夜の聖書研究では、現在「十二小預言書」を読んでいます。彼らは祖国を何度か失うのですが、それでも自分たちのアイデンティティを失わずに、どんな時代、状況や社会にあつてもユダヤ人として歩んでいきます。それを支える言葉が預言者の言葉にあつたと、改めて学びを思い起こすときにそう感じました。

同じように、世の中がどうあつても自分たちらしく歩めるとするなら、私たちにはとりわけ十字架と復活がその根拠でしょう。そのときに私たちは天に国籍を持つ者として、いかなる時も神の愛のもとに生きる者として、立つことができるものだと思います。大変な状況の中にありますが、肅々と、でも、十字架と復活の主を祝うことによつて、また新たな年度を歩み出したいと願うものです。

(狩野進之佑)

## 牧師の書斎から



新型コロナウイルス感染拡大は、日常生活に重大な脅威をもたらしています。2月末に教団宣教

方策会議が開催されたときは、「十分注意して実施しましょう」でした。3月に入ってから教団、教区、支区の会議、イベントはほとんど延期、中止となりました。ノロウイルスやインフルエンザの流行とは全く違う様相を見せています。

教会生活もままならなくなりました。

した。礼拝を中止したり、ネットによるライブ配信や、説教と週報を予め教会員に郵送して日曜の定時にそれぞれの場で礼拝する分散礼拝を始めた教会もあります。

私たちの教会は、十分注意して礼拝を守っています。出欠はそれぞれの判断ですが、電車などで来られる方は自宅で祈りを合わせることも大切です。ともかく無理をしないように、それぞれの場から共に天を見上げて礼拝することはできるのですから。また共に集い主を賛美できる日を心待ちにし

しょう。

少数ながら聖書の学びや祈祷会は続けています。部屋を区切ることなく換気や消毒に気をつけています。向かい合つて祈ることは止めています。

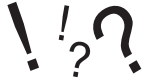
各団体や聖歌隊練習は中止。聖歌隊のある方は、自宅で練習に励んでいるとのこと。嬉しいことです。気づかないところでそれぞれ祈り、キリスト者としての使命を果たすことができるのです。終息したら共に集まって、それぞれがどのように過ごしたか、分かち合

いたいと思います。

東京教区では、それぞれの教会がどのように対応したのか、調査を始めています。ただ、いつ終息するか分かりません。忍耐が必要です。祈りを合わせる事が大切です。往来が断たれ、対面のコミユニケーションがとれないからこそ、主がとりなし、祈りを結んでくださることを信じていることができます。病の方々、そのお世話や治療に闘う方々を主が癒やし、支えてくださいますように。

(岸 俊彦)

## 個人消息



## 長老のファイル

春の温かな陽射しとは裏腹に、世の中は新型コロナウイルス感染症の暗い陰に覆われています。世界各地で感染が拡大し、国によっては罰則を伴う外出制限命令を出す等、厳戒態勢が敷かれています。グローバル化の現代に逆行して、意図的に外部との接触を断つ動きが加速し、影響は経済分野にまで及んでいます。日本も、各方面で更なる対策が急がれています。

## 掲示板



- もより教会合同受難週礼拝 中止になりました。
- イースター墓前礼拝 4月12日(日) 中止になりました。
- イースター礼拝 4月12日(日) 午前10:15 説教「疑いをこえて」 岸俊彦牧師
- 定期教会総会 4月26日(日) 礼拝後～午後3:00

## 編集後記



▽新型コロナウイルスの影響で色々な会が中止になっていますが、今日も編集委員会が持てたことに感謝します。(沢田)

「栄 光」2020年4月号  
 日本基督教団 経堂北教会  
 〒156-0051 東京都世田谷区宮坂3-21-11  
 電話：03-3428-5029 / FAX：03-3428-5038  
 牧師：岸 俊彦 伝道師：狩野進之佑  
 編集：栄光編集委員会  
 Email：kyodon@nifty.com  
 HP：http://kyodokita.life.cocan.jp

このような状況では、いたずらに現状を恐れることなく冷静に行動し、信頼に足る正しい情報を受け取るのが肝要です。例えば感染症防止のための衛生対策や、買い占めへの対処等は、行政と業界団体のホームページで確認できます。また、もし自分や家族に感染の心配がある場合、各都道府県が設置する「新型コロナウイルス感染症電話相談窓口」に問い合わせることで、必要な対応を相談できます。なお、不安につけ込んだ、特殊詐欺被害の事例も出ているため、電

話には十分注意してください。長老会では、日本基督教団による注意喚起を受け、当教会がとるべき対策について確認し、イースターの聖餐や各種委員会の中止を決定しました。教会員の皆さまも、手洗いうがい等とともに、自身の体調や移動時間等を踏まえ、礼拝や集会への出欠は祈りをもつて慎重にご判断ください。たとえ礼拝に出席しなくとも、その場において世界中の教会と祈りを合わせる事ができます。

自分の部屋に入って戸を閉め、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる(マタイ6:6) 折しもキリストの御苦しみを感じる受難節の口中にある私たちは、暗澹たるこの状況の先に、大いなる希望があることを知っています。イースターの喜びに満たされるべく、共に祈りましょう。苦しみの中にある方々の癒しと、新天地で生活を始めた兄弟姉妹を覚えて。(原 良介)